



入院患者のリハビリテーション実施率



入院患者のリハビリテーション実施率

分子	内、リハビリを実施した患者
分母	入院期間4日以上の退院患者

表示：月平均%

入院の退院患者の内、リハビリを実施した患者の割合です。

2017年に69%に減少しましたが、2018年は86%へと大きく改善しました。

2018年の患者の在院期間別リハビリ実施状況を見ると、2週間以上入院の患者では60%以上の患者に対しリハビリテーションを実施できている事がわかります。

在院期間とリハビリ実施割合

在院日数	リハ実施	未実施
1週間以内	17.1%	82.9%
2週間以内	60.4%	39.6%
3週間以内	70.6%	29.4%
4週間以内	70.7%	29.3%
5週間以内	77.4%	22.6%
6週間以内	82.4%	17.6%
それ以上	92.1%	7.9%

	疾患割合	疾患内実施
(A00-B99)感染症及び寄生虫	4.0%	47.5%
(C00-D48)新生物(悪性新生物)	5.3%	67.6%
(E00-E90)内分泌・栄養及び代謝疾患	6.3%	54.5%
(F00-F99)精神及び行動の障害	2.1%	66.7%
(G00-G99)神経系の疾患	4.2%	32.8%
(H60-H95)耳及び乳様突起の疾患	0.6%	25.0%
(I00-I99)循環器系の疾患	21.1%	79.4%
(J00-J99)呼吸器系の疾患	17.5%	56.5%
(K00-K99)消化器系の疾患	5.5%	26.3%
(L00-L99)皮膚及び皮膚組織の疾患	1.3%	66.7%
(M00-M99)筋骨格系及び結合組織の疾患	3.6%	85.0%
(N00-N99)尿路性器系の疾患	7.4%	55.6%
(R00-R99)症状・兆候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類できない疾患	4.0%	52.8%
(S00-T98)損傷・中毒及びその他の外因の影響	16.9%	55.2%

＜疾患とリハビリテーション実施＞

主病名とリハビリテーション実施の関係を見ると、当院の2018年患者では、回復期リハビリテーションの主要疾患の「(I00-I99)循環器系の疾患：脳卒中など」「(S00-T98)損傷・中毒及びその他の外因の影響：骨折関連」と、一般急性期病棟での主要疾患である「(J00-J99)呼吸器系の疾患：肺炎など」が最も多い疾患群でした。

疾患ごとのリハビリテーション実施割合をみると、「(M00-M99)筋骨格系及び結合組織の疾患」「(I00-I99)循環器系の疾患」などが特に高い割合でリハビリテーションを実施しており、「(H60-H95)耳及び乳様突起の疾患：めまい等」「(K00-K99)消化器系の疾患：ポリプ切除の1泊入院など」の短期間入院の疾患で低いリハビリテーション実施となりました。

＜早期リハビリ介入に向けた取り組み＞

入院患者へのリハビリには、入院早期に評価を行い、必要な患者へ早期のリハビリ介入をすることが、廃用症候群発生の防止につながります。

当院でのリハビリテーション実施患者への入院からリハビリ開始までの平均日数は、2016年以降毎年減少しており、早期介入が進んでいることがうかがえます。

今後との患者様で適切にリハビリを提供していくよう努めていきます。

